

Support 21 

Vol.55 2014.11

Newsletter

【さぽうと21支援生とのつどい】ご来場をお待ちしております 難民等、外国につながる学生たちが語る今と未来

皆さまから温かいご支援をいただき、おかげさまで2014年度も難民、日系定住者、中国帰国者の子弟等への就学支援を続けてまいりました。

秋の深まりとともに、毎年12月に開催してきた支援生の発表会が近づいてまいりました。今年は、坪井一郎・仁子学生支援プログラム（通称：坪井基金）の受給者8名が、それぞれの生活を見つめ直し、将来の夢や実現したいテーマについて語ります。どなたでもご参加いただけますので、どうぞご来場ください。

日 時 2014年12月20日（土）13:30～16:30 予定

会 場 東洋熱工業株式会社 本社ビル3F会議室（定員80名）
（東京都中央区京橋2-5-12）

最寄駅 東京メトロ 銀座線「京橋駅」4番出口より徒歩約1分
都営地下鉄 浅草線「宝町駅」A5番出口より徒歩すぐ

入場料 無 料 終了後、懇親会（会費2,000円）を予定しております。

お申込 お電話、Fax、E-mailにて。懇親会参加の有無もお知らせください。

坪井一郎・仁子学生支援プログラムとは

東洋熱工業株式会社創業者ご夫妻のご遺贈をもとに、2005年に開始しました（p.4に詳細）。



昨年の様子 和やかな雰囲気の中、
支援生が発表しました



❀ 年の瀬に皆さまの温かいお気持ちを！ ❀ ❀

さぽうと21が社会福祉法人としてスタートして、四半世紀が経とうとしております。

この間、難民等、日本を新たな定住の地として、自立を目指して頑張っている方々の支援活動を続けてこられましたのは、活動をご理解くださっている皆さまのお力添えのお陰と、大変ありがたく感謝申し上げます。

今までに、さぽうと21が支援した方々の国籍は20数か国に及び、ボートピープルが漂着した時代とは背景は変わってきております。しかし、様々な事情から祖国を離れ、日本を定住の地として生活している人の数は増え続けて、さぽうと21の支援活動を必要としている方の数も増えているのです。

当会では、通常の支援金の支給の他に、合宿等を通して

お互いに研鑽を積めるようなプログラムを工夫したりと、支援生の将来に資する活動を行ってまいりました。彼らも次々と立派に自立を果たし、支えられた立場から支える側になってきております。縁あって日本号に乗り合わせる事となった人々が、存分に力を発揮して日本号を引っ張り世界に役立つ人材になれるよう、支援活動を充実させていきたいと思っております。

さぽうと21の活動は、皆さまの会費やご寄附によって支えられております。引き続き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

（事務局長 高橋敬子）

支援生たちの夏期研修会、 今年も実り多い夏のひとときをすごしました!



オリンピックセンターにて、全員集合!

8月16日から8月18日まで2泊3日の研修会が国立オリンピック記念青少年総合センターで行われました。高校1年生から大学院生まで41名の支援生が集まり、またかつての支援生も駆けつけて賑やかな夏期研修会となりました。

最も好評だった企画の一つが、坪井支援生による相談ブース「ようこそ後輩!」でした。学校では話題にのぼらず、日本人の友達には相談しにくい自分のルーツ、カタカナの名前や将来のこと…色々な思いが自由に語られる場となりました。同じような思いを経験してきた先輩たちだからこそ、その言葉の一つ一つが後輩の心に強く響いたようです。

夏期研修会アンケートより

- 「進路のことでたくさん悩んだり、大人になってどうすればいいのかすごく悩んでいたの、話を聞いて考え直す時間が必要だと分かりました。」(高校生、女性)
- 「先輩たちの経験談を聞けて、とてもためになった。」
(高校生、男性)
- 「自分と似たような悩みを持った方、あるいはそのマイナスな部分をプラスに変えて生き生きと暮らしている方たちと出会い、安心感と勇気をもらいました。」(専門学校生、女性)

たくさんの景品をご寄付くださり、ありがとうございました

皆さまからいただいたお品物は、研修会の中で行われた国際理解ゲームの景品として使わせていただきました。景品を賭けたゲームは大いに盛り上がり、「景品が毎年豪華になっている!」といった感想も多く寄せられました。



相談する立場から相談される立場へ、
親身に後輩の話を聞く先輩支援生

学習支援室 だより

学びの秋の始まりに～「日本語能力試験合格」の報～

夏休みは、まさに小中学生の季節でした。夏休みの宿題で頭を悩ます(もしくはまったく気にかけようとしない)小中学生を相手に、ボランティアも自分たちのその頃を思い出しながら、「夏休みの宿題」と悪戦苦闘の1ヶ月あまりでした。そしてやってきた「学びの秋」。その訪れを待っていたかのように、「日本語能力試験、合格しました」のご報告が続きました。日本語能力試験は、今はN1からN5まで、5つの級がありますが、さぼうと21に通う皆さんの、最初の目標はN3合格。日本に来て初めての「試験」です。

そして、その後、N2、N1へと目標を少しずつあげていきま

す。日ごろ、生活に追われ、勉強には週に1回しか来られない皆さんにとっては、「合格」どころか「受験」そのものも大きな挑戦です。

今回は、N3合格1名。N1合格3名。うち一人はN1に「180点満点」での合格。来日から4年目の高校1年生です。

しかし、何より感心するのは、皆さんが「自分の力はまだまだ」と言いながら、さらに勉強を続けようとする、その姿勢です。

「学びの季節」はまだまだ続きます。

ベトナム難民 第一・第二世代とのつどい

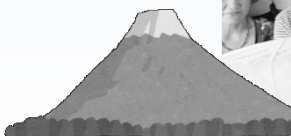
日本がインドシナ難民の受け入れを開始してから、35年以上が経ちました。

行政や地域社会での十分な受け皿がない中、日本で生活を始めることになった第一世代の方は、大変なご苦労であったことと思います。

この度、さぼうと21理事会の提案により、約30年前に来日した同胞の方が集う場を企画いたしました。

元軍人の方、小さなボートに命からがら乗り込んだ方。留学生として日本で学んでいたところ、母国では戦争が長期化し、卒業後も帰国できなくなった方など、様々な年代・来日経緯の方にご参加いただきました。

- 日 時：2014年9月6日(土)－7日(日) 1泊2日
- 場 所：箱根・小田原・御殿場 周辺
- 参加者：62名(うちベトナム出身者52名)



★ 御礼状の一部を紹介 ★

雨が降る湖畔とその向こうの深い霧に覆われる木々の深緑を眺めていると、「パパが逃げたときも水面はこんな静かだったの」「そんなことあるわけじゃないじゃないか。海が荒れて、波が嵐が船を何メートルも上に突き上げてはドンと突き落す、そんなことの繰り返しだった。あの時、船はぎゅうぎゅう詰めで3日目に食糧が尽き……」と、隣の夫婦からそんな会話が耳に入った。

今回の旅行をまとめる上で、キーワードが幾つか見えてきた。

「感謝」「恩返し」「仲間」「家族」。

二十数年経った今、この機会に、自分たちを支援してくれた難民を助ける会(※さぼうと21の前身)、自分たちを受け入れた日本、そして日本の人々に感謝の言葉を述べよう、と夕食の時に72歳のTさんが声をかけたとき、参加者全員が起立して「ありがとうございました」と深々と頭を下げた。

やっと言えた感謝の気持ち、何十年にもわたって一度きちんと言いたかった感謝の言葉を伝えられたからなのか、目を真っ赤にした参加者が何人もいた。

難民を受け入れて36年。参加者全員の心が一つになってお礼をしたこの瞬間に立ち会えて本当によかったと心から思った。(後略)

(ヴ・ティ・キム・スアン)

Ông/bà có điều gì muốn chia sẻ với xã hội Nhật Bản xin ghi dưới đây.

日本社会に述べたいことあればお書きください。

Quét cuộc đời tôi CANH TA TRI ÂN CHÍNH PHỦ
NHẬT BẢN - CÁN CỐ NHÂN DÂN NHẬT ĐÃ CỨU HANG
TÔI KH. ĐẾN NHẬT - Cầu mong ông tiết Nêu chúng tôi đều
không giúp gì được cho xã hội Nhật thì chúng tôi xin
qua những việc không tốt không làm mất lòng anh hướng
đến hình ảnh xã hội Nhật Bản. Vì Đất nước Nhật còn
phải giúp đỡ lo lắng cho các nước bị nạn khác.

《日本語訳》

私たちを受け入れてくれた日本の人々に生涯にわたって感謝しています。

私たちベトナム人が、もし何もいいことができないのなら、少なくとも日本に迷惑をかけたり、悪いことをしないように願っています。

なぜなら日本は今、その他の難民を助けなければいけないのですから。

(60代・男性・ボートピープルとして来日)

「秋はお祭りも！」

皆さんは毎年10月はじめに日比谷公園で行われる「グローバルフェスタ」をご存知ですか。様々な国際協力関係の機関や団体が集まって、それぞれの活動を来場者にアピールします。

今年はさぼうと21も学習支援室が中心となって、この「お祭り」に初参加。飲食の出店では何度も試作や話し合いを重ね、「ミャンマーのモヒンガ(麺料理)」を販売。当日の長蛇の列にほっと一息。展示ブースでは、学習者の皆さんが持ち寄ってくださった民族衣装ロンジー(巻きスカート)をご希望の方に試着していただきました。

2日目は大雨で12時閉会となったのがちょっと残念ですが、「大変だったけど、楽しかった～！」と最後は笑顔の2日間でした。



さぼうと21開店準備OK!!



2015年度生活支援生

募集情報

日本に定住し、高校、専門学校、大学に通うことが経済的に困難なインドシナ難民・条約難民、日系定住者（南米など）、中国帰国者の子弟等の外国出身者に、返済不要の「生活支援金」を支給します。（来年4月に入学予定の方も応募可。留学生の方は対象外です。）

生活支援プログラム

日本の高校、専門学校、大学に在籍の方

募集期間 2014年11月10日（月）～
2015年1月30日（金）必着

坪井一郎・仁子学生支援プログラム

日本の大学3年次以上、または大学院生

募集期間 2014年11月10日（月）～
2014年12月10日（水）必着



※詳細は Web 上でご覧ください。http://support21.or.jp

さぼうと21の記録 出版のお知らせ

この度さぼうと21は、当会の前身である「インドシナ難民を助ける会」の時から現在に至るまでの活動の記録を12月中に出版いたします。詳細につきましては、お電話やメールなどでお問い合わせください。

さぼうと21の姉妹団体、「難民を助ける会」が下記イベントを主催いたします

リレーマラソン地球

～地雷ではなく花をください～

地雷廃絶のためのチャリティ大会として今年2月に初めて開催されたリレーマラソン。

来年3月もマラソンランナーの谷川真理さんを大会アドバイザーに迎え、パワーアップした内容で第2回を開催いたします。

日時 2015年3月22日（日）

会場 千葉県立柏の葉公園総合競技場とその周辺

種目 キッズラン50m、キッズラン100m、
アスレチックリレーマラソン、3時間リレーマラソン

イベントの詳細は、同封の次のチラシをご覧ください。

多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

協力 社会福祉法人さぼうと21

お問合せ 難民を助ける会（AAR Japan）TEL: 03-5423-4511



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.55 2014.11

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぼうと21は…

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、在日外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。

認定NPO法人難民を助ける会（AAR JAPAN）を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省（当時）認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。

「困った時はお互い様」をモットーに、日本国内で政治、宗教に中立な立場で活動しています。

学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

私たちの活動を応援してくださる方を求めています！

■会 員：法人会費 50,000円
：個人会費 5,000円

■ご寄付：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

◆会費・寄付のご送金口座◆

ゆうちょ銀行	振替口座：00180-7-25470 加入者名：社会福祉法人 さぼうと21 ※通信欄に会費または寄付とご明記ください
三井住友銀行	目黒支店（普）851872 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち
みずほ銀行	目黒支店（普）1180279 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち ※銀行振込み後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

社会福祉法人 さぼうと21

住所：

〒141-0021
東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル3階

TEL：

03-5449-1331

FAX：

03-5449-1332

E-mail：

info@support21.or.jp

URL：

http://www.support21.or.jp

